



2014年9月号

娘の小学校は私立？ それとも、公立？ 私立派の夫と、もう一度話し合いたい。



論理アタマが育つポイント

進むべき道に迷ったら、
問題点を明確にするために情報を整理すること。
まず、メリット・デメリットを書き出してみましょう。



今回の問題のように、「AかBか」「イエスかノーか」といった選択を求められる場合、気をつけてほしいことがあります。それは、夫と妻がそれぞれ自分の言い分をいかに相手に認めさせるかに終始しては、決していい結果を生まないということ。とくに、子どもの進路について、そのような話の進め方はまったくおすすめてできません。

なぜなら、進路の問題は「子どもにとって望ましい進路はなにか？」という点だけでなく、「そのためには、両親がいかに協力していけるか」という、今後の親のあり方が大切だからです。

夫を説得しようとする
と対立してしまいがちです

傍線①②では、話の最初から夫を「私立派」と決めつけて対立する構造をわざわざ作っていますね。これでは、夫は身構えてしまいます。傍線③のように、「相談したい」というスタンスから始めましょう。

また、夫婦が互いの思いだけをただ言い合っても、話の着地点はなかなか見つからないと思います。そうならないためには、話し合いの具体的な材料として、情報を整理し共有すること

が必要ですね。
まず、娘がなぜ「友達と同じ小学校がいい」と言い出したのか、その背景を夫に説明すること。それから、**ママ**が、部分のように、エスカレーター式付属校に通うメリットとデメリットを書き出してリストにしてみることをおすすめします。たとえば……、「メリット」

受験の心配がない。
部活動や習い事などに打ち込める。
長い付き合いの友達ができる。等
【デメリット】
友人関係が広がりにくい。
通学に時間がかかる。
学費が高い。等

以上の情報をベースにしたうえで、*娘にとって何が優先か。
*どのように成長してほしいのか。
*母親の負担はどうか。
などについて、一つひとつ話し合っていくと、お互いの考えも細やかに理解できるような気がします。

子育ては長い道のりです
夫婦で率直に話し合える習慣を
また、こうした話し合いは、傍線④にあるように私立受験のよい準備に



出口先生の小学生のママ向けサイトがオープン！
「グーンと伸びる、小学生の子カラ」<http://www.deguchi-hiroshi.com/kodomo/>

イラスト…ワタナベケンイチ 取材・構成…杉村蓮子

今月のお題
伝える技術7

娘の小学校は私立？ それとも、公立？ 私立派の夫と、もう一度話し合いたい。

問題文



夫が希望したことをきっかけに、娘は私立の付属小学校を目指して、昨年から受験教室に通っています。ところが、最近になって「幼稚園の友達と同じ小学校がいいな」と言い出しました。

- 私「夏帆の小学校なんだけど、やっぱり私立がいい？」
- 夫「どうしたんだ。もう決めたことだろう」
- 私「夏帆が、友達の子きちゃんと同じ公立の小学校が気に入って言い出して……」
- 夫「そんな子どもの言うことって、いちいち進路を変えてたらきりがないぞ」
- 私「でも、小学校に通うのはあの子だから」
- 夫「君がそんなに迷ってどうするんだ」
- 私「あなたは私立派だものね」
- 夫「俺の問題じゃなくて、夏帆のことを考えて決めたんだろ」
- 私「本当に夏帆のためになるのかしら」
- 夫「この時期に、何を言ってるんだ」

解答例



夫を説得するのではなく、
進路を話し合う姿勢と準備を。

- 私「夏帆がね、小学校のこと迷ってるみたいなの」
- 夫「どうしたんだ？ なにかあったのか」
- 私「友達と同じ公立の小学校がいいって、言い出してる……」
- 夫「そんな子どもの言うことって、いちいち進路を変えてたらきりがないぞ」
- 私「そうね……。ただ、この時期にどうして私立に通いたいかを、夫婦であらためて話し合ってみるのには、悪くないんじゃないかなと思って」
- 夫「どうして？ 君も迷ってるのか？」
- 私「いずれにせよ、夏帆の気持ちを大切にしたいとは思っている。それに、受験するとしても、両親面接の準備にもなるでしょ」
- 夫「ああ、なるほどな……」
- 私「それでね、こんなリストを作ってみたんだけど」（夫に、私立に通う利点・欠点を記した表を渡す）
- 夫「うん？ とれどれ……」

ママのための 日本語トレーニング vol.13



論理アタマを育てよう！

子どもの成長とともに出てくる問題のひとつが、進路のこと。「この幼稚園がいい？」「小学校は受験する？」夫婦の意見がびったり合っていれば話は簡単なのですが、もしも食い違いが出てきたら、あなたならどうしますか？

出口 汪 でぐち・ひろし
大学院生時代に予備校の教壇に立ち、独自の論理的解法を駆使した講義でたちまち人気を博し、現代文のトップ講師として30年以上にわたり、教え続ける。2002年に自らの経験の集大成として『論理エンジン』を開発。執筆した受験参考書の売り上げは累計600万部を超える。小学生向けの『出口汪の日本語論理トレーニング』シリーズ(小学館)が好評発売中。